

令和 2 年度 県立芦屋高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 学校経営のテーマ

「予測困難な時代を生き抜く、知・徳・体のバランスのとれた力を備えた生徒の育成」

○めざす「芦高」像

教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」

論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

2 本年度の重点目標

第 3 期「ひようご教育創造プラン」を踏まえ、次の 6 項目を重点目標とする。

- (1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実
 - ア 自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育成する。
 - イ 勤労や職業に対する考え方を育むとともに、個に応じた支援の充実に努める。
- (2) 外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。
 - ア 特別枠で入学した生徒に、取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する。
 - イ 姉妹校提携した学校との交流、海外語学研修、留学生の受入れを通して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の伸張を図る。
- (3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実
 - ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。
 - イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する能力を育成する。
 - ウ 問題解決的学習や体験学習を積極的に取り入れ、学習した内容を活用する力の育成に努める。
- (4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上
 - ア 生徒の多様なニーズに対応するため、教育内容や教材の精選、指導方法の工夫に努めるとともに相互に研修する機会を設け、「教育の専門家」としての資質・能力の向上に努める。
 - イ 教職員が互いに努力を認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努める。
- (5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校の教育方針や教育内容について、保護者や地域住民等への理解を図るとともに、学校への要望などにも留意し、地域に信頼される学校づくりを進める。
 - イ 地域住民と連携し、「高校生ふるさと貢献活動事業」の積極的実施を通じて、開かれた学校づくりを推進する。
 - ウ 地域及び関係機関等と連携して、震災後の取組を発展させた防災教育の充実に努める。
- (6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
 - ア 生徒一人一人に社会生活のルールや基本的なモラルを守る倫理観の育成を図るとともに、自己責任の自覚、自立心の涵養に努める。
 - イ 命の大切さを基盤とし、学校内外の活動や体験を通して、やさしさや寛容の精神を育み、共に助け合って生きる心の教育を進める。
 - ウ 生徒の心のケアに対応する校内の教育相談体制の整備に努める。

3 総合的な自己評価

- (1)「総合的な探究の時間」を軸としてキャリア教育に取り組み、自身の進路について、7割強の生徒がしっかりと第一志望を持っている。キャリアプランニング能力の育成を図るために、中学校からのキャリアパスポートの活用を含めた取組を検討していくとともに、キャリアノートを活用して、3年間をとおした継続的なキャリア形成につなげていく取り組みを進める。
- (2)外国人生徒の支援については、モデル校5年目として教職員間での共通理解を図り、支援体制を確立できた。進路実現に向けての早期からの対応により、3年次生徒の進路実現が図れた。国際交流については、コロナ禍の中で姉妹校との交流や海外語学研修が全て中止となったが、バーチャル語学研修や授業を通じた文通等によりオーストラリアとの交流を深めた。また、JICAの協力により分散での講演会を実施する等、異文化交流を促進した。
- (3)学力向上については、新学習指導要領への移行、大学入学共通テストへの対応に向けて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図るための授業改善など、教職員の授業力向上に取り組み、7割弱の生徒が学校の授業がわかると答えている。今後は互いに授業を見合う取り組みや、学びのイノベーション事業で整備されたICT環境を活用した授業力向上の取組を進める。また、読書時間は例年と差がなく、読書離れの実態が改善できていない。図書館の学習センターとしての機能充実と活用を検討していく必要がある。
- (4)地域との連携について、コロナ禍の中で、「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等で予定していた内容の変更や中止を余儀なくされたが、在宅学習で簡易防護服の製作に取り組む等、生徒自らが発進した新たな取組に繋げることができた。しかし、今年度、課題としてきた地域活動やボランティア活動への生徒の参加割合は昨年度より減となった。地域に貢献していこうとする生徒を次年度は「総合的な探究の時間」のフィールドワークで育成していく。
- (5)心の教育については、「教育相談体制」の認識が、保護者、生徒ともに昨年度より大幅に上昇した。これは、教職員の生徒理解及び学校教育全体をとおした教育相談体制が周知され、キャンパスカウンセラーを軸として相談体制が充実した成果だと考える。

4 学校関係者評価総括

新型コロナウイルス感染症対策の中での学力向上や進路実績の取組について、様々な質問と意見を頂戴した。特に、休校期間中の学習指導の工夫や家庭の情報通信環境について質問があった。今後、オンライン学習の在り方やBYOD導入にともなったICTを活用した授業改善等について研究を進めていく必要がある。また、その一方で紙媒体からの情報収集に努める姿勢も大事にすべきではないかとのご意見があった。学習センターとして図書館の環境整備を進めると共に、活字文化の重要性を見直した先駆的な取組を進めていく必要がある。そのような中で、芦屋市在住の中学生在が地元の芦屋高校に行ってこんなことに取り組みたいと思える特色を打ち出していく。さらに、これまでも地域と連携した防災・減災教育に取り組んできたが、今後も、地域の防災拠点として、地域、行政、大学と連携した取組をさらに継続・発展させていく。

5 次年度に向けた重点的な改善点

令和4年度入学生からの新学習指導要領実施に向けて教育課程を完成させ、単位制の特色を生かしながら、生徒の主体的な考察・活動を促す授業づくりとICT環境を活用した授業改善をさらに進めていく。地域社会における課題に目を向け、地域と連携した探究的な取組を進めると共に、生徒が主体となって、地域を巻き込んだ芦屋高校の魅力が発信できる体験活動を充実させ、その成果をしっかりと広報していく。

6 重点目標別自己評価結果

★印は今年度新規項目 評価の[]内は昨年度評価

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実	① 高大接続に対応した進路の取り組みを、各課・各年次と連携して準備する。【進路】	① 年度末に総括を行い、年次からの意見をまとめて評価に資する。【進路】	B [B]	① 高大接続改革初年度を迎えた3年次と、前年度から連絡を取り合い、共同して対策を進めることができた。ガイダンス課との進路関連の行事の連携も円滑に進めることができた。【進路】
	② 進路別説明会等の進路行事を活用して、生徒の進路意識の向上に努める。【進路】	② 進路別説明会等のアンケート結果を評価に資する。【進路】	B [B]	② コロナ禍により、6月実施予定だった3年次は中止となったが、1,2月実施の1,2年時は困難な状況ではあったが実施することができた。また、2年次国公立志望者対象の講演会も感染予防対策に配慮をしながら実施した。【進路】
	③ 「総合的な探究の時間」を通してキャリア教育や探究的活動に取り組む。【ガイダンス】	③ 生徒のレポート等を参考に、年度末に総括を行い、評価に資する。【ガイダンス】	B [B]	③ 学問研究や新聞記事等を素材にしたプレゼンテーションやポスターセッションに意欲に取り組むことができた。【ガイダンス】
	④ 各年次・教務課・進路課と連携し、生徒一人一人の個性と進路希望に応じた履修計画の作成を指導する。【ガイダンス】	④ ガイダンスブックの活用状況や履修科目登録状況を振り返り、評価に資する。【ガイダンス】	B [B]	④ 予備登録から本登録までの選択科目の変更希望が例年に比べて激減した。今後も「ガイダンスブック」「シラバス」を有効に活用し、予備登録までにしっかり意識付けを行っていく。【ガイダンス】
	⑤ 社会人や大学生の話を聴き、高校生活の在り方や将来の生き方を考えさせる。【ガイダンス】	⑤ 「仕事ナビ」「進路ナビ」などの行事实施後の生徒の感想などを評価に資する。【ガイダンス】	※ [B]	⑤ 今年度はコロナ禍の影響で実施できていないため、評価できない。【ガイダンス】
	★⑥ 日本学生支援機構給付奨学金の選考に関する手続き、基準等を周知し、進学意欲の向上とともに社会に対する責任感を自覚させる。【総務】	★⑥ 選考基準や選考過程に対する学校内外からの意見を評価に資する。【総務】	A [※]	⑥ 選考過程に変更のあった昨年度に引き続き、コロナ禍で日程にも大幅な変更を余儀なくされた一年であったが、年次と連携して内容の周知に努め、保護者からの質問にも丁寧に対応し、手続きを円滑に進めることができた。【総務】
	⑦ 伸び悩みや、目標との乖離を感じた時が重要なポイントとなる。焦らず前向きに努力を続けられるよう年次集団全体でサポートする。また、進路課と密に情報交換し、生徒に適切なアドバイスを送れるようにしておく。【3年】	⑦ 卒業時の進路に関するアンケートを実施し、評価に資する。【3年】	B [※]	⑦ 受験期が近づくにつれ、目指す進路に迷いが生じることが見受けられたが、自らの将来や生き方を考える絶好の機会ととらえ、丁寧に面談を行った。その結果、多くの生徒が周りに流されず、自らの進路実現に向かうことができた。ただ面談回数がコロナの影響で少なくなったことが心残りである。【3年】
	⑧ 新しい入試制度を見据え、一人一人の生徒が進路実現までの道のりをイメージして、思考力・表現力を身につけるためにアクティブラーニング授業を多く取り入れ、自主的・主体的に取り組める力を身につける。【2年】	⑧ 定期的に二者面談を行い、各個人で評価をつける。年次会議の中で授業の取組みやクラスの様子などについて情報共有し、協議した内容を評価に資する。【2年】	B [※]	⑧ LHRの時間で二者面談を行い、進路について深く考える時間を作ることができた。模試の問題を活用し、振り返りをさせるなど3年次に向けての取り組みを始めている。また授業については「深い学び」に繋げる授業をと試みたが、コロナの影響で対話的な授業を作ることが難しかった。これから工夫をしていく必要がある。【2年】
	⑨ 新しい入試制度に向け、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるために授業を工夫し、アクティブラーニングを積極的に導入していく。【1年】	⑨ 定期的に面談や進路LHRを行い、個人の進路実現に向けての意識づけ、到達度を確認し、評価に資する。【1年】	B [※]	⑨ 新しい入試制度に向け、各教科で多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるための工夫した授業を行ったが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、アクティブラーニングを積極的に取り入れることが難しかった。コロナ禍におけるアクティブラーニングの手法を取り入れた、さらなる授業研究と改善を行っていきたい。【1年】

(2)外国人生徒の特別入学制度をもとに多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。	①特別枠で入学した生徒に取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する 【国際教育】	①当該生徒や保護者からの聞き取り内容、各教科の試験の到達度や日本語能力試験の結果などを評価に資する。 【国際教育】	B [B]	①校内での情報共有に努め、支援体制を整えることができた。しかし外国人生徒が抱える課題は多様化しており、各生徒に応じた生活支援や学習支援の工夫が課題である。 【国際教育課】
	②姉妹校との交流、海外の学校との交流やその他の学校行事を通して異文化理解を促進する。 【国際教育】	②本校や台湾での交流の様子や国際理解教育関係の学校行事でのアンケート結果を評価に資する。 【国際教育】	B [A]	②新型コロナウイルスの影響で、台湾での交流やオーストラリアでの海外語学研修は中止となったが、異文化理解を高める機会としてオーストラリア・バーチャル語学研修を実施した。アンケート結果から、参加した生徒の満足度は高かったが、より多くの生徒に参加を促すための工夫が必要である。 【国際教育課】
(3)基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実	①新学習指導要領に対応した教育課程の編成について、準備を進める。 【教務】	①教職員の共通認識の醸成ができているか、教員アンケートなどにより状況を確認し、その結果を評価に資する。 【教務】	B [B]	①県教委主催の教育課程説明会での内容を、各教科で周知し、各教科会、教育課程委員会で情報を共有・交換しながら、教職員全体の共通認識のもと、新学習指導要領における教育課程編成を進めた。 【教務】
	②研究授業による授業力の向上を図る。 【教務】	②研究授業および事後検討会の実施回数などを評価に資する。 【教務】	B [B]	②研究授業・公開授業の検討を行い実施したが、その回数は十分ではなかった。今後、研究授業・公開授業における授業見学シートなどについても継続して検討していく。 【教務】
	③模試・学力テストの分析を共有し、進路指導に役立つ情報を提供する。 【進路】	③進路実績、共通テスト、模擬試験の結果について経年比較し、評価に資する。 【進路】	B [C]	③模試分析等を外部業者に委託し、外部講師による職員研修を実施した。共通テスト結果は昨年並みであった。指定校を含む成績上位層の推薦合格者増加により共通テスト受験者は減少し、高得点者層も薄いのが現状であり、課題である。 【進路】
	★④オンライン学習システム等、ICTを活用した学習指導の支援を行う。 【広報情報】	★④年度末に教員・生徒にアンケートを実施し、その結果を評価に資する。 【広報情報】	A [※]	④学校評価アンケートでは、教員の約9割が臨時休校期間中にICTを活用して学習支援ができたと回答している。生徒・保護者では6割～7割程度が臨時休校期間中にICTを活用して十分な情報提供や学習支援が行われたと回答しており、教員と生徒・保護者でやや差はあるものの、緊急事態下で概ね良好な取組ができたと考える。 【広報情報】
	★⑤補習や個別課題などは学力伸長、進路実現を踏まえてできるだけ個に応じたものを提供する。 【3年】	★⑤面談や日々生徒とコミュニケーションをとる中で、生徒のニーズや適切な課題が提供できているか確認し、評価に資する。 【3年】	A [※]	⑤個別の質問や相談しやすい環境を整えることで、学習や進路実現のニーズに細やかに対応することができた。生徒個々に応じた声掛けを徹底することで、生徒に寄り添ったサポートに徹することができた。 【3年】
	⑥自学自習の習慣を、Classiや補習などにより身につけさせ、主体的に学習する意欲を高める。 【2年】	⑥模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取り組み状況については生活実態調査の分析すること で評価に資する。 【2年】	B [※]	⑥LHRで模試の振り返りを丁寧に行った。ベネッセのデジタルサービスを活用し、1年次からの自分の模試成績を見直すことで弱点克服や得意科目を伸ばす事などを分析した。生活実態調査では学習意欲が見られる結果が出ているので3年次に向けて準備をしていく。受験を意識している生徒が多くなり、授業に取り組む姿勢が良くなっている。しかし、まだまだ生活・学習の習慣が確立していない生徒もあり、成績の二極化がおきている。二者面談など、声かけを継続していく。 【2年】

	⑦自らの長所を伸ばし活かしていく前段階として、授業や小テストなどの地道かつ基礎的な取り組みや、清掃活動や行事における役割など、全ての取り組みに全力を尽くすことができる集団を目指す。【1年】 ⑧学習センターとしての充実を図る。【図書】 ⑨読書センターとしての充実を図る。 a)配架・排架の日常的な点検 b)リクエストの継続 c)教科・特別活動、「教育ビジョン」とリンクした図書の充実 d)創意・工夫を凝らした図書出版委員会活動【図書】	⑦日々の生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒の成長や変化を確認して身についた学力や意欲・関心を総括し、評価に資する。【1年】 ⑧次の観点で評価する。 ・照明・空調等、「読む」「考える」環境が整えられていたか。 ・選書基準及び購入が妥当であったか。 ・資料の廃棄が適正であったか。 ・その他【図書】 ⑨(a)～(d)について、取組み内容の進捗状況を分析し、評価に資する。	B [※] A [B] B [C]	⑦清掃活動や行事など何事にも一生懸命に取り組む生徒が多くみられた。学習における基礎的な取り組みについては、しっかり取り組む生徒とそれをしない生徒がはっきりと分かれた。次年度に向けて年次全員が何事にも主体的に取り組めるよう年次集会や担任から指導を行う。【1年】 ⑧コロナ禍から自身の安全を守るということもあってか、図書館の利用は概して低調であった。一方、照明・空調等ではかなりの改善が見られ、図書館レイアウト、資料の廃棄等ではここ数年に比べ、かなり意欲的に行い、環境を整えることができた。【図書】 ⑨特に、d)において、日常・継続的に図書委員会が活動し、排架目録の作成や図書管理を精力的にこなした。半面、教職員のアンケートからは授業や放課後での利用が十分できていないという結果（できていると思う教員は、全体の34%程度）となった。今後、取組を検討する。【図書】
(4)教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上	★①学校行事の立案に際し、状況の変化に対応しながら、各課・年次との連携を深め、意見を集約・反映した計画を作成していく。【総務】 ②校務支援システム・成績処理の安定的な運用を図る。【教務】 ★③「学びのイノベーション推進事業」に基づいた校内のICT環境の整備を行う。【広報情報】	★①行事計画の妥当性については、各行事の実施状況に対する意見を集約し、評価に資する。【総務】 ②成績処理・出欠処理などについて、正確かつ効率的な運用ができているか、アンケートを実施し、その結果を評価に資する。【教務】 ★③年度末の時点で、整備状況の確認を行い、その結果を評価に資する。【広報情報】	B [※] A [A] C [※]	①コロナ禍における行事変更により、行事予定については再三の変更を余儀なくされ、実施に少なからず影響を与えてしまう結果となった。状況の変化に対応しながらも各課・年次の意見を反映した計画の作成にさらなる工夫が必要と感じさせられた。【総務】 ②成績処理の入力を整理したことにより、より適切な運用ができた。今年度はコロナへの対応が必要となり、いまままでにないシステム運用が必要な状況があったが対応することができた。【教務】 ③学校としては休日返上で対応にあたったが、そもそもの県教委の計画にかなりの無理があり、十分な整備を行うことができていない。大きなところでは公道を挟む体育館方向へのネットワークが整備しておらず、災害時に体育館が避難所になったとしても「災害時無料Wi-Fi 00000JAPAN」が使用できない状態のまま取り残された。また、配備されたタブレットPCも現在の県のネットワーク構造では授業に使える性能は出ず、校内の努力では解決できない課題を残している。【広報情報】

(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進	★①自治会が主体となった地域社会に貢献する活動の参画を支援する。 【生徒課】 ②緊急事態下において、学校ホームページ等の可能な方法を駆使して情報発信を行う。 【広報情報】 ★③新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりつつ、可能な手法を駆使して中学生および保護者、中学校教員に対して広報活動を行う。 【広報情報】 ④防災訓練を通じて、生徒一人一人の防災意識、自主性、判断能力の育成を図る。また地域との連携を深め、協力関係を継続していく。 【総務】	★①生徒・教員アンケートの結果を評価に資する。 【生徒課】 ②校内および校外アンケートを実施し、その結果を評価に資する。 【広報情報】 ★③実施することができた広報活動の数、および志願者数の増減結果を評価に資する。 【広報情報】 ④防災訓練時の生徒の行動、生徒の自治的活動状況を分析し、地域からの意見も参考にして評価に資する。 【総務】	B [※] A [B] A [※] A [A]	①コロナ感染症の影響により、地域との交流ができなかったが、簡易防護服の作成や芦屋市制80周年記念事業等への積極的な参加等、地域貢献を行った。次年度は延期された本校の80周年行事等もあり、地域との交流を復活・改善していきたい。 【生徒課】 ②校内外アンケート（学校説明会・学校評価）より、学校HPの閲覧の割合は昨年度よりも増加した。情報量を絞った臨時のトップページを作るなど、緊急事態下における効率の良い情報発信ができた。 【広報情報】 ③オープンハイスクールは中止となったが、9月以降は2回の学校説明会や個別の中学校から依頼を受けての説明会、塾等主催のオンラインでの説明会など、昨年度に近い数の広報活動を実施できた。学校説明会では体育館での全体会に代えて各教室への映像配信を導入することにより、感染防止対策をとりつつ一度に約1000人の中学生・保護者を受け入れることができた。参加者からは非常に好評であった。 【広報情報】 ④コロナ禍の影響で地域からの参加は限定的であったが、水平移動を伴う避難訓練を神戸大学と連携して実施し、訓練を通して生徒が防災リーダーの存在を意識して、主体的に判断し行動することの重要性を認識することができた。 【総務】
--	--	--	---	---

(6) 自治・自律の精神と人命を重んずる教育と豊かな人間性の育成	★①清掃美化活動を通じて、生徒一人一人の自主性、責任感、公共心の育成を図る。 【総務】	★①美化状況、生徒の活動参加状況に対する意見を総括し、評価に資する。 【総務】	B [※] B [B] A [A] B [B] B [※] B [※] C [※]	① 日常の清掃活動を通して生徒の意識はある程度高まったと思われるが、実際の美化内容については、まだまだ改善の余地があり、今後、検討が必要である。 【総務】
	②「自治」に根ざした芦高生の確立 生徒申し合わせ事項の厳守 創造的な自治会行事の支援 【生徒】	②生徒・教員アンケート、学期ごとの年次章・通学服検査の結果を評価に資する。 【生徒】		② コロナ感染症の影響で全体への注意喚起を十分に行うことができなかったが、年次との連携により、始業式での服装点検並びに、登校時での注意喚起等により、まずまずの成果があった。地道に注意喚起することにより、次年度も成果が上がる方策を検討する。 【生徒】
	③ カウンセリング環境の整備 【保健】	③ カウンセリングの実施回数とコンサルテーションの内容の充実度を分析し、評価に資する。 【保健】		③ 休校期間があったにもかかわらず、カウンセリングの実施回数は昨年度とほぼ同数となった。電話によるカウンセリングも利用しながら、生徒や保護者とのつながりを継続できた。現在、オンラインによる遠隔でのカウンセリングも利用できる環境が整った。学級担任等を交え、内容的にも充実したコンサルテーションが実施できた。 【保健】
	④ 救急救命法の啓発 【保健】	④ 実施回数や内容を分析し、評価に資する。 【保健】		④ 新型コロナウイルス感染拡大にともない、例年実施している研修会の実施が困難と考えられたが、運動部を対象に、芦屋市消防局に出向く形で実施ができた。 【保健】
	⑤ クラスや年次内で、様々な進路に向かう者同士が互いに認め合い、高め合える環境をつくる。 【3年】	⑤ 生徒、保護者と連絡を取る中で、常に生徒の状況を確認し、情報共有や現状分析をして、評価に資する。 【3年】		⑤ それぞれの努力や取り組みの姿勢が、クラスや年次の仲間に好影響を与えるという好循環が見られた。しかし、意図的に他者への影響を考えたというよりは、自分の道を邁進した結果であろうと考える。周囲に好影響を与えていることを評価し、望ましい集団づくりに意識を持たせたい。 【3年】
	⑥ 積極的に年次集会を実施し、コミュニケーションの大切さを伝え、代議委員が中心となって、クラスや年次の課題を発見し、自分たちで行動できる力を育んでいく。 【2年】	⑥ 代議委員会を開き、意見交換と相互評価を行い、その結果を評価に資する。 【2年】		⑥ 月1回、年次集会を開き、学習面・生徒指導面など年次で共有しなければならない事を伝え、年次全体で情報共有する事ができた。修学旅行もあり、代議委員や修学旅行委員中心に、生徒が行事を仕切って取り組んだことでクラスの輪もいっそう深まったと感じる。教師・生徒との意見交換もできた。今後も、進路実現に向けて引き続き取り組んでいきたい。 【2年】
	⑦ 積極的に年次集会を実施し、コミュニケーションの大切さを伝え、代議委員が中心となって、クラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決する力を育んでいく。 【1年】	⑦ 代議委員会を開き、意見交換と相互評価を行い、その結果を表に資する。 【1年】		⑦ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から年次集会や代議委員会の積極的な実施ができなかった。来年度も同じ状況が考えられるので、クラスごとで担任と相談しながら課題を見つけクラスで解決する力をつける方法も考える。 【1年】